



審査委員長 藤森 照信

ガラスという工業技術の粋ともいべき建材と、太古よりの自然の象徴ともいべき木質素材の関係を問うコンペであったが、難題であったと審査して思った。工業と自然、科学技術と自然、人工と自然—このテーマについての正解はまだまだ見つからないだろう。そうした困難の中でどれが最優秀になるかは、審査員としてまことに興味深かった。提案部門で最優秀に選ばれた富永美保氏の案は、最初さほど面白いとは思わなかったが、議論のなかで急浮上する力量を見せた。既存の町をテーマとし、既存の町の抱える複雑な問題を単純な方法で解決する点と達者な絵がこの力量を支えている。優秀賞の中原拓海氏、西亀和也氏、松川真友子氏の案は、既存のビルの減築というテーマに、ガラスと木質系素材で答えるという他に類のない案であり、プログラムを含めてよく練られている。ガラスと木を積層させたり、ガラスに深くスライスした木を張るアイデアの案がいくつも見られた。現実味のあるアイデアだけに興味深く審査したが、決定的案がなかったのが残念である。

作品例で最優秀賞となった南平明宏氏の作品は、見事である。既存の倉庫をこのようにガラスブロックを使い、このように美しく仕上げられる力量はそう簡単に身につくものではない。ガラスブロックを使った作品例は数多くあったが、新味のあるものは少なかった。

今年の南平氏やかつての山下保博氏を目標に新しい技術と表現に励んでほしい。

審査委員 飯田 善彦

ガラス(質)と木(質)という、性能も性格も異なる素材をどう組み合わせるか?と設定された提案部門の課題に対して様々な応答があり、審査をしていて面白かった。

ただ、残念ながら多くの提案はすでにどこかで見た印象があるものか、いかにも荒唐無稽なものであり、ガラスと木が持っている素材としての魅力を、新たなイメージに結びつけているアイデアはそれほど多くない。

その点で、最終的に選ばれた10点は実現可能性も含め、何らかのメッセージ性を強く感じさせるものだった。特に優秀案に選出された2点は積極的に都市に介入し、より良い状況を創り出そうとする現実的かつ批評的な視点を共通して持ちながら、それぞれ異なる提案に結びつけている。なかでも最優秀案は、木造密集住宅地の中に、装置のように防火ガラスを持ち込むだけで、防火性

のみならずコミュニティの質、密集することの美しさまで鮮やかに描き出して秀逸である。

作品部門は、様々なガラス素材を使って新たな空間を生まだしている例はとて少なかったように思う。

最優秀案は、すでに時間が経過した既存の倉庫の壁面を、断熱、遮音を理由にガラスブロック壁を空隙を開けて積み上げ、一挙に勝負に出たかのような新鮮なファサードを実現している。ガラスブロックの性能や効果を十分に理解し計算したうえで実行する大胆さが何よりも素晴らしい。どちらの部門も、審査員全員一致で最優秀を含む入賞作品を決定した。

審査委員 東條 隆郎

今回、課題は「ガラスと木質の出会い」である。両者とも非常に身近な素材ではあるがガラスは工業製品、一方木質は自然素材という対極的な素材の組み合わせである。近年ガラスの持つ機能・性能が飛躍的に拡大・進化してきている。強度的・熱的に高性能なガラスや防火的に高性能なガラス、最近では「見えないガラス」と言うような、建築のみならずディスプレイに使われ始めているものまで多種多様なものが登場している。そのような中で、今回の「ガラスと木質の組み合わせ」による新たな建築空間の提案を求める課題にどのような答えが出されるか大いに期待するものがあつた。結果は、都市的・まちづくり的スケールのものから、ガラスと木質を融合させた素材を考案し空間を構成するものや水、緑など自然景観との関わりの中でその有り様を追求したものなど多種多様な提案があつた。

提案部門の最優秀案は木造密集市街地の建物の開口部にファイアライトを利用した「部戸」を設ける事で防火対策とし、その部戸を跳ね上げる事で、庇あるいは覆いの役割を持たせ、建物と建物の間にある道路空間をより親密な境界性のある空間となる事を大いに期待させる提案である。また、優秀案は大変印象に残った案である。超高層ビルの減築(床を減らす)した空間をアトリウム化し木質を利用し、その部分にあるガラスのスクリーンの広がりと共にゆとりと潤いのあるオフィス空間を提案している。近い将来起こり得るオフィスビルのリノベーションとしての提案であるのみならず新しいオフィスの可能性を感じる秀作である。

作品例部門の最優秀作は倉庫の外装のリノベーションである。ガラスブロックという素材の特徴を最大限引き出し表情豊かな妻面を構成している。

夜景も大変美しい。周辺環境に対するインパクトを感じさせる力作である。

優秀作の幼稚園は、内部間仕切りを構成している構造体である木製の格子のグリッドに様々な色のガラスブロックを配することで、園児たちが集う部屋に木質とガラスが調和して、親しみやすく潤いのある優しさを感じさせる空間を創り上げている。

審査委員 大下 純夫

第19回空間デザイン・コンペティションは、おかげさまで数多くの応募をいただくことができました。関係者各位、ならびに応募者の皆様方に深く感謝申し上げます。応募いただいた皆様方がこのコンペティションを足がかりにご発展されることを祈念したいと思います。

【提案部門】最優秀賞の富永案『傘の回廊』は、木造密集地域における火災対策に着目したところに深く感心させられました。路地を防火ガラスで覆うことで、避難経路を確保するとともに火災の延焼を抑えてしまう。木密地の火災の挙動を良く研究し、そこに暮らす心の豊かさや裏腹にある火災の危険性を解消する提案でした。今後の都市防災計画の中で木質と防火ガラスの出会いがあることを期待したいと思います。優秀賞の中原、西亀、松川案『Wooden-Cave Skyscraper』は、更新期を迎える超高層ビルの耐用年数を延ばすために、減築してその部分に木質の空間を挿入していくといった興味深い提案でした。均一的なガラス質の空間に様々な表情と機能をもつ木質の空間を組み込むことで、全く新しい空間に生まれ変わる。正にガラス質と木質が出会う空間でありました。

【作品例部門】最優秀賞の『kokudo-souko』は、とにかく美しいといった印象を受けました。さらに「ガラスブロック」がもつ断熱性、遮音性、照明効果を巧く活かし、「ガラスブロックの機能美」を最大限に表現した作品でした。優秀賞の『二本松市立とうわこども園』では、色とりどりのカラーガラスブロックが木製の格子壁に組み込まれており、こどもの施設に相応しいやさしく楽しい空間を創り出している作品でした。入賞された作品以外にも『行方市立麻生中学校』、『観音寺市立中部中学校』、『メディカルコートあやめ池』など弊社建材製品の特徴を巧く活かして頂いた作品が数多くありました。今後もこの空間デザイン・コンペティションを通じて、効果的な使い方が数多く提案されることを期待したいと思います。